

伏見が「自由な美術活動空間」にこだわる訳

「自由な美術活動空間」とは

まず、「自由な美術活動空間」を御紹介します。

「自由な美術活動空間」は、令和元年度から、美術活動に意欲のある都内特別支援学校の生徒や卒業生を対象におこなっているアート・ワークショップです。

私たちのワークショップの基本的スタイルは、時間的・物理的制約を可能な限り取り払い、参加者が思う存分表現活動に没頭できるようにするというものです。学校の体育館という広い空間で、机上だけでなく、床面や壁面に広げた紙などに絵を描けるようにし、様々な画材を箱から出して並べ、自由に手に取って選べるようにしています。また、最長 5 時間の範囲内で、参加者が意欲に合わせて活動できるようにしています。

ぜひ、「自由な美術活動空間」のホームページ (<https://www.unlimited-art.net/>) を御覧いただき、詳細を御確認ください。

こだわりの背景

さて、私がこのワークショップの開催にこだわる訳は、口幅ったいのですが、一言で言えば、子供の「可能性を信じている。」といったことからです。

なぜ、そのように思うようになったのか。

今から 40 年近く前、教育学部の学生として小学校で教育実習を行っていた時のことです。自分が想定していた以上に、子供たちが体験をとおして様々なことに気付き、学ぶ姿に触れるできごとがありました。その時私は、「子供たちは元々、学ぶ力をもっている。」ということに気付かされました。そして、この体験が、私の教員としての方向性に大きな影響を与えました。

その後私は障害児教育に携わってきたのですが、障害のある子供の可能性を拡大させること、また、子供自身が自らの可能性を実感できるようにすること、さらには、子供たちの可能性を多くの人に伝えていくこと、に注力してきました。その一つが職業教育ですし、社会貢献活動ですし、このアート・ワークショップ「自由な美術活動空間」などの表現活動の取組です。

表現とは何か

表現というのは、一体何なのか。そのことがいつも意識の内にあります。

「自由な美術活動空間」を運営していると、表現というのは、いろいろな意味合いをもっていると感じますし、毎回新しい発見があります。

自分の考えや思いを人に伝えるが目的で表現する。また、他者に称賛されることを目的に表現する。これらは、表現の前提に他者の存在があります。私たちの表現は、多くの場合、この範疇に入ると思います。ですから、生み出す作品に意味を付けたり、求めたりします。

一方、表現するその行為そのものが目的である表現があります。特に、比較的知的障害の程度が重い人の表現には、この傾向があるように感じます。また、この場合にも、元々その人の内面に表現したいものがある場合と、特に表現したいものがあるわけではないものの手や身体を動かすという行為自体、あるいは目の前に「もの」が現れるという現象が快の感覚に結び付く場合。逆に快ではなく、内面に溜まった負のものを吐き出すために表現する場合があるようです。

どの表現が望ましい、正しいということはありませんし、「自由な美術活動空間」は、どの表現を対象にしているということもありません。どのような表現であったとしても、特に表現できる場を自ら作っていくことの難しい人たちに対して、できるだけ制限をなくし、思う存分、納得できるまで、好きなように表現できる空間を提供しています。

さらに、言葉で自己表現することが不得手な子供たちの行為は、理解されにくいことがあります。それは、意味を付け、求める一般的な表現とは異なるからだと考えます。ですので、このような子供たちの表現そのものの価値が見逃されたり、表現している行為を妨げられたりすることがあります。この結果、本人の「表現したい」という欲求はくすぶり、内面に沈殿してしまいます。

だからこそ、様々な制約をできるだけ無くした「自由な美術活動空間」を作ることこだわっているのです。

個別最適な表現活動

「自由な美術活動空間」で参加者は、「表現したい」という欲求に基づいて表現し、自分の表現ができたという体験を積み重ねていきます。ときには、他の人の表現に触れ、刺激を受けることで、新たな表現に取り組んでいくことがあります。このような状況になることで、参加者本人の中で、表現手法の深化や新たな手法を身に付けるための学びが生まれます。そして、参加

者が新たな手法を身に付けたいと求めたとき、「自由な美術活動空間」では、新たな表現手法を紹介していくのです。

一方、従来の図画工作や美術の授業では、筆の持ち方・使い方、色の合わせ方などを指導し、練習を重ねた上で、作品を作成するという指導になる傾向があります。本人が表現したいもの、表現方法は、その授業の計画の範囲内となってきたように思います。

しかし、これから重視されていく「個別最適な学び」は、「個に応じた指導」だけでなく、「教師が子供一人一人に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を提供することで、子供自身の学習が最適となるよう調整する「学習の個性化」（中央教育審議会答申、令和2年1月）」も含むものです。したがって、図画工作や美術においても子供自身が「何をどのように表現したいか」といったことが重視されなければなりません。

「自由な美術活動空間」での活動は、これからの「個別最適な学び」につながるヒントがあると思っています。この活動に多くの教育関係者が触れることで、新たな時代の教育の在り方を見出すことができるのでないかと考えています。

ここまでお読みいただき、ありがとうございます。

私は、この活動にこだわっていますが、この活動だけが唯一絶対だとは思っていません。アート・ワークショップにも多様な在り方があると思います。様々なアート・ワークショップが、いつもどこかで開催されていて、子供たちが自分に合った活動を選んで参加し、充実した時間を過ごし、自らの可能性を花開かせていく。そのような社会を作っていきたいと考えています。

これを読んでくださった皆様には、御理解と御支援をいただけますよう、よろしくお願い申し上げます。

令和5年3月18日

「自由な美術活動空間」事務局代表

伏見 明